

## いわて思春期研究会平成 25 年度第 3 回研修会グループ討議内容まとめ

日時：平成 26 年 1 月 25 日（土）15:00～18:00

会場：岩手県医師会館 3 階 中会議室

内容：「思春期教育をどのように進めるか ～指導教材作成に向けて～」

「小学生」、「中・高校生」の二つのパートに分かれ、用意されたスライドを基に、指導教材作成のためのグループ討議を行いましたので、その概略をご紹介します。

### 【小学生の部】

私たちは実際に学校現場でどのような講演をしているのかお聞きしたり、臼井先生の作成した資料を見たりしながらのディスカッションとなりました。

#### ◎いのちの教育を進める上での課題

- ・小学生は年齢の幅が大きく、それに加えて地域性、家庭環境、学校の考え方など、様々な背景を配慮しなければならないこと。
- ・教える立場の大人が、意外と正確な知識を持ち合わせていないこと。

これらの課題を踏まえて、子どもへ教える際に見せるスライドと、大人へも知識や心がまえや対応をどうするかアドバイス？するスライドを作るのはどうだろうと話し合われました。

#### ◎子ども版

臼井先生が作成したスライドに月経をポジティブに伝えられるようなスライドを加えた。生理用ナプキンの使い方や、※月経をむかえるのが早すぎたり遅すぎたりした時はどうすればいいの？ など。また、タバコの体への影響は必ず欲しい情報。

#### ◎大人版

子どもを守るため、今ここにいるだけで素晴らしいと伝えるために。体の仕組み、二次性徴などの意外と知らない「え？そうだったの？」と思うようなことを盛り込みたい(上記※の部分のことを私は知らず、まさに「そうだったの？」でした)。

また、小さな子どもにある性器いじりへの対応については、家庭だけではなく、幼稚園や保育園で働く方にとっても知りたい情報になりそう。

### 【中・高校生の部】

#### ◎何を伝えるか

大きく分けると以下の二つに分けられる。どちらも大切に伝えたいこと。

- ①『知識』を伝える→スライドにしやすい、みんなで共有できる

②『生き方、考え方』を伝える→スライドにしにくい、個人の思い（思想的、哲学的）も入ってくるので共有が難しいかもしれない

◎中学生という時期＝自分と向き合う時期

（実態として、中学校、高校、産婦人科で仕事をしている方から、自己肯定感やコミュニケーション能力の不足が気になるという意見も。）

このことから、①『正しい知識』＋②『中、高校生が自分自身で考える、自分自身に問いかけられるような内容』が必要。

（さまざまな家庭環境もあるが、自分で考えていける力を身につけさせたい、という願いがみんなにありました。）

◎実際の指導では（知識を取り込んでもらうための手立ての工夫）

次のようなものを取り込んでみてはどうでしょう。

- ・グループワーク、〇×クイズ、看護学部の学生などを活用したピア
- ・問いかけ（気持ちを考えさせるために）
- ・生徒たちが自由に発言できる場面の設定
- ・評価しない、認めてあげる

◎具体的な指導内容の例

例1) レイプに関する指導を行うとき

→被害にあわないようにという指導だけではなく、『加害者にならないための教育』も大事。

例2) 今は簡単に「死」という言葉が子どもたちから出てくる

→「死」という言葉を大人が耳にしたとき、大人が聞き流してしまわず、反応してあげることで子どもに気付かせることができる。

このような日常的な働きかけを繰り返すことも大事なことである。

◎こういうことも大事

- ・性指導を行う際、「何を伝えるか」「どの専門家に協力を得るか」「どの方法を使うか」など吟味し、学校と（講演会であれば）講師の打ち合わせも大切である。
- ・指導する側と現代の中高生との世代間のギャップは避けられないもので、それをどうとらえていくかも考えていかなければならない。
- ・命の大切さを教える＝人の死についても考えさせなければならないが、今の教育ではなかなか死について考える場面が少ない。どう生きようとするのか、これが命である。
- ・自尊感情と相手を尊重する気持ち＝性指導ではもちろん、何の教育にも共通するものである。